

人と音を結ぶ
Classic Nagoya
クラシック名古屋
〒460-0024
名古屋市中区正木四丁目8番7号れんが橋1F
TEL(052)678-5310 FAX(052)678-5330
<https://clanago.com>

プレイガイド
アイ・チワット
☎ 0570-00-5310

ナゴヤ劇場ジャーナル®

◆発行/マネージメント・プロ ◆編集/プランニングオフィス白壁 ◆協賛/クラシック名古屋

MP MANAGEMENT PRO
①舞台イベントの企画制作・マネジメント
②芸術コンサルティング
③タレントのマネジメント
④ナゴヤ劇場ジャーナルの発行

株式会社マネージメント・プロ
〒461-0004 名古屋市東区葵2-11-22 アバンテージ葵ビル301
TEL : 052-508-5095 FAX : 052-508-5097
E-mail : mane-pro@mane-pro.com
HP : <http://www.mane-pro.com>



杉村奈々花 宇津舞衣子



来年1月23～25日 アートピアホール
『夢見る少女』の愛と勇気の物語
ミュージカル「赤毛のアン」

家庭でも学校でも、さまざまな騒動を巻き起こす「夢見る少女」アン。シャーリー。孤児院で育った、農場を営むカスター兄妹に引き取られたアンは、美しいカナダの自然と、温かな周囲の人々に恵まれ健やかに成長し、1908年に出版され、現在も世界中で愛され続けている。『赤毛のアン』が、2026年1月23～25日（全6回）名古屋市文化振興事業団2026年企画『ミュージカルとしてアートピアホール』で上演される。

日本では、1979年に高畑勲監督のアニメ版がオンエアされ好評を得、劇団四季の人気レパートリーとしても繰り返し上演されている「赤毛のアン」。今回の事業公演では、平野智子が台本、演出を小川こういちが振付を担当。演奏は名古屋音楽大学出身の柴田祥・指揮のアヴァンソリ！ ユース管弦楽団が行う。



この公演は、競輪の補助を受けて実施します。



年末恒例の公演を行う伊藤わか奈

『夢見る少女』の愛と勇気の物語
ミュージカル「赤毛のアン」

来年1月23～25日 アートピアホール
『夢見る少女』の愛と勇気の物語
ミュージカル「赤毛のアン」

家庭でも学校でも、さまざまな騒動を巻き起こす「夢見る少女」アン。シャーリー。孤児院で育った、農場を営むカスター兄妹に引き取られたアンは、美しいカナダの自然と、温かな周囲の人々に恵まれ健やかに成長し、1908年に出版され、現在も世界中で愛され続けている。『赤毛のアン』が、2026年1月23～25日（全6回）名古屋市文化振興事業団2026年企画『ミュージカルとしてアートピアホール』で上演される。

日本では、1979年に高畑勲監督のアニメ版がオンエアされ好評を得、劇団四季の人気レパートリーとしても繰り返し上演されている「赤毛のアン」。今回の事業公演では、平野智子が台本、演出を小川こういちが振付を担当。演奏は名古屋音楽大学出身の柴田祥・指揮のアヴァンソリ！ ユース管弦楽団が行う。

KEIRIN
00
この公演は、競輪の補助を受けて実施します。

パロックからロマン派、近現代の名曲を
ピアノスト伊藤わか奈がリサイタル
12月26日 電気文化で「展覧会の絵」

年末恒例の公演を行う伊藤わか奈

名古屋市出身のピアニスト伊藤わか奈が年末恒例のリサイタルを開く。12月26日（午後6時45分）電気文化会館で行う「展覧会の絵」だ。伊藤は菊里高校から東京藝術大に進学。同大学院在学中にドイツのベルリン芸術大学に留学。帰国後は2014～16年、「ベートーヴェン・ピアノソナタ全曲演奏会」を開催。名古屋市芸術奨励賞、名古屋音楽部門クラブ賞を受賞している。

今回のプログラム前半は、パロックならではの多様性や奥深さを一台のピアノでどこまで表現できるのか、自分自身への挑戦として演奏したい」と来場を呼び掛ける（聞き手・竹本貞哉）

333)8809。
伊藤だ。
伊藤だ。
伊藤だ。

“6人組、100余年の時を超える”

ダンス メゾノラボ ソプラノ チェロ クラリネット ピアノ

倉知可英・相可佐代子・毛利美奈子・佐藤有沙・箱崎由衣・山内敦子



披露公演を行う現代、名古屋の「6人組」

立させてきた倉知・相可・毛利・佐藤・箱崎・山内は、渦の中の女たち

（2019年）「瑞穂文化小劇場開館10周年記念公演」（25年）など、様々な構成・演出を担うの

は、ヨーロッパ芸術文化の洗礼を受けたスペシャリストたちである。

（2019年）「瑞穂文化小劇場開館10周年記念公演」（25年）など、様々な構成・演出を担うの

は、ヨーロッパ芸術文化の洗

トを受けたスペシャリストたちである。

（201

100回記念、演奏に継続の重み

つつみあつき

「つつみあつきクラリネットコンサート」の
100回記念演奏会(11)

月8日・名東文化小劇場)に、20年間継続した重みを感じた。

つつみ、妻のクラリネット堤久美子、ピアノ稲神佐和子。おなじみの3人が出演。前半は地元の作曲家を特集、水野み

かの「去り行く季節」、小塚憲二のバレエ曲「ふたつのアダージョ」、それを小川裕三に委嘱した「クラリネット・ソナタ」。

どれも親しみがあり、三

様の魅力が味わえた。

曲調に合わせた映像が

映され、作品のイメージ

が湧く効果があつた。

100回は通過点。ま

だまだ続きそうだ。

100回は通過点。ま